

Calendar grid showing dates from April to March with color-coded days (yellow, red, blue, green) and event markers.

Calendar ○ 休館日



ロダン館および本館とロダン館をつなぐブリッジギャラリーでは、近代フランスの彫刻家オーギュスト・ロダンの作品32点のほか、ロダン以前の代表的な彫刻、ロダンに影響を受けた近代彫刻を展示しています。

2022年4月1日より静岡県立美術館ではデジタルアーカイブを公開します。こちらのQRコードを読み込んでいただくと、池大雅(蘭亭曲水・龍山勝会図屏風) (表紙作品)の超高精細画像や、オーギュスト・ロダン(地獄の門)の3D画像などをご覧いただけるページにアクセスできます。



Exhibition Schedule 2022.4-2023.3

Information section containing opening hours, admission fees, accessibility, and contact details for the museum.

Information 表紙：池大雅(蘭亭曲水・龍山勝会図屏風) (部分) 中表紙：オーギュスト・ロダン(地獄の門) 画像提供：凸版印刷株式会社



静岡県立美術館 Shizuoka Prefectural Museum of Art

つながる、次へ

大展示室展

4月2日(土)～5月16日(日)

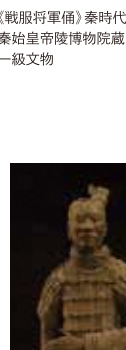
作品を展示するための「ハコ」である美術館の展示室には、安全に、そして快適に作品を見て頂くために、実は色々な工夫が込められています。本展では展示室の様々な機能を一挙にご紹介します。作品を入れるケース、壁、台車、道具、照明等々、普段はひっそりと身を隠す美術館の裏方を、どうぞご覧ください。併せて、静岡県立美術館創設期の資料を公開。1/3世紀前の人々が描いた夢のお目にかかけましょう。県立美術館、元々は駿府公園のお畑の中に出来る予定だったって、ご存じでしたか？ ※作品は展示されません。収蔵品展の観覧料をご覧ください。



上：移動壁を動かした展示室 下：模型「静岡県立美術館建築基本構想提案」(縮尺：1/300)

兵馬俑と古代中国～秦漢文明の遺産～

6月18日(土)～8月28日(日)



秦の始皇帝は、紀元前221年に、史上初めて中国大陸に強大な統一帝国を打ち立て、春秋戦国時代にわたって約550年も続いた戦乱の世を終結させました。統一後、わずか数十年のうちに秦は滅亡しましたが、始皇帝陵で発見された兵馬俑をはじめとした多くの遺物は、その絶大な国力を示しています。その後、劉邦が創始した漢帝国は、中国古来における黄金時代の一つです。漢は、後の中国、アジア、そして世界の歴史に多大な影響を及ぼしました。本展では、今から2000年以上前の秦と漢の王朝の時代に、地下に数多く埋蔵された兵馬俑に焦点を当て、古代中国の遺産の数々をご紹介します。

《鎧射武士俑》秦時代 秦始皇帝陵博物院蔵 一級文物 《鎧射武士俑》秦時代 秦始皇帝陵博物院蔵 一級文物

絶景を描く—江戸時代の風景表現—

9月10日(土)～10月23日(日)



原在正(富士山図巻)第10巻(部分) 個人蔵

当館および個人のコレクションから、富士山をはじめとした日本各地の風景を描いた江戸時代の絵画を中心に展示し、その展開を辿ります。古くから描き継がれてきた名所絵、南画家達による旅の感興を表す真景図、そして写生をもとに追真性を追求する実景図と、江戸時代の風景表現の諸相をご紹介します。多様な表現を比較しながら、それぞれの特徴や魅力を明らかにするとともに、題材となった風景の歴史にも注目します。絵画を通じて江戸の絶景を巡る旅をご堪能ください。

鴻池朋子展(仮)

11月3日(木・祝)～2023年1月9日(月・祝)



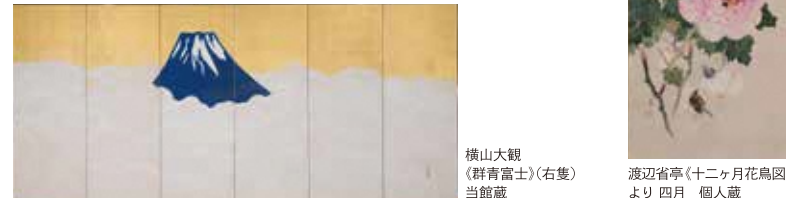
円形橋と滑り台 福展「ちゅうがえり」アーティスト美術館展示展展 2020

「観客はもはや人間だけではない。」人間の視点中心だったこれまでの芸術は、今、地球規模での問題と共に大きな転換期を迎えている。そう考える現代アーティスト鴻池朋子(1960年生)が、本展では2020年の個展「ちゅうがえり」(アーティストン美術館)で試みた、従来の美術館の仕組みから観客を解放するさまざまな取り組みを、さらに発展させようとして、夏に展示が立ち上がる高松市美術館からバトンを引き継ぎ、アーティストという生き物も、コレクションという物も、風土や風景と共にリレーし変化していきます。ぜひ新たな美術館を体感してください。

近代の誘惑—日本画の実践

2023年2月18日(土)～3月26日(日)

当館コレクションを中心に、明治以降に描かれた日本画を集中的にご覧いただく久々の展覧会。西洋からの刺激を受けて新たに獲得したものの、再評価されたものを探りつつ、その底流に流れ続ける江戸以来の「伝統」に目を向け、実践的に作品を読み解いていきます。時代とともに変わるもの、変わらないものを確かめ、知らず知らず受け継がれる価値観や美意識を改めて見出していくことは、私たちが生きる今を知ることにもつながります。静岡県立美術館を代表する作品から、隠れた名品まで、近代という時代が生んだ日本画の成果をご覧ください。



横山大観 《群青富士》(右隻) 当館蔵



渡辺省亭(十二ヶ月花鳥図)より 四月 個人蔵

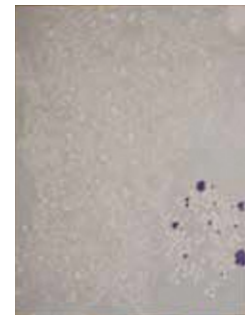
収蔵品展

1. 新収蔵品展

5月24日(火)～7月18日(月・祝)



ルイジャン・デブレ、フランチェスコ・ピラネージ 《ボツォーリのセラピス神殿》



中西夏之 《グレーの中の白い旋回—III》



狩野探幽 《玉葉原本 畫梅図》

購入により5件、寄贈により9件の作品が新たに静岡県立美術館のコレクションに加われました。これら新収蔵品を、関連作とともにご覧いただけます。

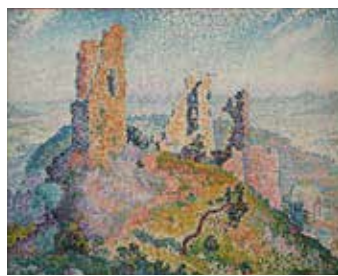
収蔵品展

収蔵品展

2. 絶景考 I・II

第I期 7月20日(水)～9月19日(月・祝) 第II期 9月21日(水)～11月20日(日)

絶景をキーワードに当館コレクションの風景画を紐解きます。第I期では、17世紀から19世紀中頃に描かれた西洋の風景画とともに、西洋における絶景の美学の系譜をたどります。第II期では、近代絵画に描かれたフランス各地の風景を参照しながら、絶景とは何かを考察します。



ポール・シニャック 《サンクトロペ、グリモーの古城》 ※第II期にて展示予定

3. 《綱川図巻》修理後初公開／静岡県・浙江省友好提携40周年記念「綱川図と蘭亭曲水図」

11月22日(火)～2023年1月9日(月・祝)



《綱川図巻》(部分) ※表紙の池大雅(蘭亭曲水図)は本展で展示されます

2018年に収蔵後、3年にわたる修理を行った《綱川図巻》の全巻初公開を行います。また、静岡県・浙江省友好提携40周年を記念して、浙江省にある蘭亭に注目し、江戸時代の蘭亭曲水図をご紹介します。

4. 光—The Light

2023年2月14日(火)～4月9日(日)



ダレン・アーモンド 《Civil Dawn@Mt.Hiei,B》 ©Darren Almond

光は、アーティストに豊かな創作のインスピレーションを与えてきました。ダレン・アーモンドが夜明けの薄明りの光の中で撮影した《Civil Dawn@Mt.Hiei,B》をはじめ、当館の現代コレクションの中から「光」をキーワードに選り出した絵画、立体、写真をご紹介します。

静岡県立美術館の収蔵品を中心とする展覧会を、次の会場でご覧いただけます。 富士市文化会館ロゼシアター 11月19日(土)～11月27日(日)

移動美術館

企画展